

I 水 稻

梗 稻

(1) トヨヒカリ (上育 159号)

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場上川支場にて昭和19年に「早生愛国」を母とし、「水稻農林15号」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定をつづけて育成したもので、昭和25年に「2508」の仮名称をつけ、昭和26年に「上育 159号」の系統名をつけて生産力検定試験および特性検定試験を行なうと同時に、道内各地にも種子を配付して地方適否を確かめ、昭和28年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「栄光」と大差ないが熟期は「中生栄光」と同程度のものであつて、晩生種の早に属する。
2. 草型は穂数型で、中稈、穂の長さは中くらいで粒着はやや密、無芒であり、稈先色は暗紅色をていする。
3. 稻熱病耐病性は「富国」、「栄光」、「中生栄光」よりもはるかに強く、やや強に属する。
4. 冷水抵抗性は「栄光」、「富国」、「中生栄光」よりややおとり、やや弱に属する。
5. 耐倒伏性は「栄光」よりややおとり「富国」、「中生栄光」と同程度である。
6. 収量は「栄光」、「富国」、「中生栄光」よりもはるかに多収である。
7. 品質は中型中粒で、品質は上の下で「栄光」、「中生栄光」と同程度であり、「富国」よりもまさる。

奨 励 図 案

以上の特性からみて中、晩生種地帯における「栄光」、「中生栄光」と比較して多収性を示し、耐病性も相当強いので、中、晩生種地帯の主要品種とし

て好適である。

試 験 場 名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		初摺 歩合	試 験 年 次
					草丈	穂長	1株 本数	玄米重	稈重	1立 重	1千粒 重		
上川支場	直播	月日 8. 6	月日 9.17	—	83.2	13.4	44	4,865	—	832.20.9		—	昭和年 27
	冷床	8. 4	9.14	—	84.9	15.3	20	4,434	—	—		—	25~27
空知支場 国立農試 作物部 同 美 研 究 室	冷床	8.14	9.30	154	86.8	16.4	23	3,848	5,061	812.21.8	21.8	83.3	30~33
	冷床	8.15	10. 5	160	80.5	14.9	25	4,181	6,686	815.20.6	20.6	83.6	29~33
	冷床	8.10	9.25	126	82.3	15.6	23	3,885	6,155	789.20.6	20.6	83.0	27~33

(2) ワセニシキ (北海 147号)

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場上川支場で昭和19年に「紅綿」を母として「水稻農林20号」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定をつづけ育成したもので、昭和25年に「2514」の仮名称をつけ、昭和26年に「水稻北海 147号」の系統名をつけて生産力検定試験および特性検定試験を行なうと同時に、道内各地にも種子を配付して地方適否を確かめたものである。昭和28年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 成熟期は「水稻農林20号」と同程度であつて、早生種に属する。
2. 草型は穂数型で、短稈、穂の長さもやや短かく、粒着密で稈先に暗紅色の着色がある。
3. 稻熱病耐病性は「水稻農林20号」より強く、「水稻農林28号」よりも強い傾向を示すが、「水稻農林34号」よりややおとる。
4. 冷水抵抗性は「水稻農林20号」と大体同程度である。
5. 耐倒伏性は「水稻農林20号」と大差なく、「水稻農林28号」より強い。
6. 収量は直播栽培、冷床栽培ともに「水稻農林20号」「水稻農林28号」よりも多く、とくに多肥栽培の場合に幾分その傾向が強い。
7. 玄米は中形中粒で品質は上の下で、「水稻農林20号」、「水稻農林28号」

と大差がない。

奨励範囲

従来の早生種に比較してこの「ワセニシキ」は収量多くまさつている。特に中生種地帯において、早生種を配合する場合の早生品種として用いるのに適する。耐冷性について「水稻農林20号」程度であることは栽培上特段の注意を必要とする。

試験場名	苗代 模式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 に お け る			ha当り収量		玄 米		歩合	試験 年次
					草丈 cm	穂長 cm	1株 茎数	玄米重 kg	稈稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
上川支場	直播	7.30	9.7	—	71.4	12.9	40	3,938	—	823	19.5	—	昭和25~27
	冷床	7.27	9.10	—	83.0	16.0	22	4,519	—			—	25~27
十勝支場	直播	8.18	9.23	—	74.7	12.1	27	1,707	5,417	777	17.9	79.6	28~31
	冷床	8.17	9.14	—	89.6	15.3	19	2,175	4,929	757	17.4	79.4	28~30
天北支場	冷床	8.7	9.27	151	73.5	15.6	19	3,841	3,807	809	20.8	81.7	28~30 32
国立農試 作物部 共同 英明研究室	冷床	8.6	9.22	148	77.9	15.6	26	3,805	6,204	814	20.6	84.5	29~33
	冷床	8.2	9.22	114	75.5	15.7	22	3,495	4,427	793	21.5	79.9	27,29, 30

(3) テルニシキ (上育 157号)

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場上川支場にて昭和19年に「紅綿」を母とし「水稻農林20号」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定をつづけ育成したもので、昭和24年に「2428」の仮名称をつけ、昭和26年に「上育157号」の系統名をつけて生産力検定試験および特性検定試験を行なうと同時に道内各地にも種子を配付して地方適否を確かめたものである。昭和28年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 成熟期は「栄光」より幾分おくれ気味であるが、中生種に属する。
2. 草型は穂数型で、やや短稈、穂の長さもやや短かく粒着密で、稈先に暗紅色の着色がある。

3. 稻熱病耐病性は「栄光」よりもやや強く「富国」よりはるかに強い。
4. 冷水抵抗性は「栄光」よりやや劣るが「富国」と同程度である。
5. 倒伏性は強の部に属し「栄光」よりも強く、「富国」、「中生栄光」よりはるかに強い。
6. 収量は直播栽培、冷床栽培ともに「栄光」よりまさり、「富国」よりはるかに多収である。
7. 玄米は中形、中粒で「栄光」と大差なく上の下に属する。

奨励上の注意

以上の特性から本種は中生種の主要品種として栽培に好適である。ただし耐冷性は決して強いものでないから栽培上この点に充分注意する必要がある。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		刈摺 歩合	試験 年次
					草丈	穂長	1株 米数	玄米重	籾重	1立 重	千粒 重		
上川支場	直播	月日 8. 5	月日 9.18	日	cm 77.4	cm 13.6	本 43	kg 4,853	kg	g —	g —	% —	昭和年 27
	冷床	8. 4	9.11	—	79.0	15.0	22	4,275	—	823	20.1	—	25~27
天北支場	冷床	8.12	10. 2	155	78.6	15.8	17	3,597	3,273	820	19.4	80.7	26, 32
国立農試 作物部	冷床	8.13	10. 4	160	75.8	15.2	16	4,048	4,645	812	19.9	82.8	29~30
農研研究室	冷床	8.13	9.27	123	73.3	15.6	19	3,353	5,123	784	20.4	79.7	27~29

(4) ホ ク ト (北海 127号)

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場上川支場にて昭和17年「功糯」を母とし、「共和」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定を続け育成したもので、昭和21年に「2150」昭和22年に「2150 A」の仮名称をつけ、昭和24年に「北海 127号」の系統名をつけて生産力検定試験および特性検定試験を行なうと同時に、地方適否を確かめ、昭和28年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 成熟期は「水稻農林20号」よりややおそく、「水稻農林28号」程度であ

つて早生種に属する。

2. 草型は中間型であつて中稈，穂の長さは中位であり，粒着密，短芒である。
3. 稻熱病耐病性は「水稻農林20号」よりもはるかに強く，「水稻農林28号」よりも強く，大体「水稻農林34号」より幾分劣る傾向があるが，全体からみて耐病性は強の部に属する。
4. 冷水抵抗性は「水稻農林20号」，「水稻農林34号」，「水稻農林28号」よりも強く，冷水抵抗性に強い「シラユキ」と同じ程度の強さを示す。
5. 耐倒伏性は「水稻農林28号」よりもはるかに強く，「水稻農林20号」，「水稻農林34号」よりやや強い傾向を示す。
6. 収量は「水稻農林20号」，「水稻農林28号」よりやや多い傾向を示す。

奨励範囲

早生種地帯の安全確収の上からみて耐病性，耐冷性品種として栽培するに適する。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		籾摺 歩合	試験 年次
					草丈	穂長	1株 本数	玄米重	精米重	1立 重	千粒 重		
上川支場	直播	8. 3	9. 8	—	77.3	13.2	30	3,851	—	817	24.8	81.8	昭和24~27
	冷床	7.30	9. 9	—	85.5	14.8	19	4,123	—	—	—	81.0	27
十勝支場	直播	8.20	9.30	—	81.1	13.4	19	2,330	4,509	766	20.1	80.5	28~32
	冷床	8.18	9.27	—	87.7	14.4	14	2,460	4,196	772	21.2	81.4	28~32
天北支場	冷床	8.10	9.29	150	98.1	20.4	14	3,884	3,335	801	23.2	80.5	28~32

(5) 紅 光 (渡育 134号)

来歴および育成経過

この品種は北海道立農業試験場渡島支場において昭和17年「陸羽 132号」を母とし，「晩生栄光」を父として人工交配を行なつたもので，その後選抜固定をつづけ，昭和23年「渡系 135号—7」の系統名で生産力検定予備試験に編入，さらに昭和26年以降は「渡育 134号」の育成番号をつけて生産力検定試験および特性検定試験を行ない，昭和28年地方適否を確かめ昭和29年2

月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「巴まさり」と大差なく、成熟期は「巴まさり」より2日おくれ、晩熟種に属する。
2. 草丈は「南榮」程度であるが茎数はやや多目、無芒で稈先に暗紅色の着色がある。
3. 稻熱病耐病性は、穂首には「巴まさり」より強いが、節にはとくに強くはない。
4. 冷水抵抗性は弱くはないが、とくに強いというものではない。
5. 倒伏抵抗性は草丈の伸びる割に稈は丈夫で、「巴まさり」より強い。
6. 収量は「巴まさり」程度である。
7. 玄米の形はやや円味をおびており、光沢は極めてよく、かつ腹白がほとんどなく極めて品質がよい。

奨 励 範 囲

晩熟種に属する品種であるから、渡島、檜山の南部における良質米として現在の品種に配合して栽培したい。

試験場所	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		籾摺 歩合	試験 年次
					草丈	穂長	株 茎数	玄米重	稈稈重	1立 重	千粒 重		
渡島支場	冷床	月日 8.10	月日 9.26	日 156	cm 89.9	cm 16.8	本 17	kg 4,182	kg 5,018	g 809	g 20.2	% 80.2	昭和年 26~33 欠29

(6) 白 光 (渡育 132号)

来歴および育成経過

この品種は「紅光」と兄弟系統で、両親も交配年次も全く同じである。昭和23年「渡系 135号—3」と名づけ、昭和26年以降は「渡育 132号」の育成番号を附し、特性検定試験をへて「紅光」とともに昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期および成熟期はともに「巴まさり」より3~4日おくれ晩熟種に

属する。

2. 草丈は「巴まさり」より幾分短かく、中位の長さの芒があり、穂にも穂先にも特別の着色はない。
3. 稲熱病耐病性は、穂首に対しては「巴まさり」より強いが、「南榮」よりおとる。
4. 冷水抵抗性は弱い方である。
5. 倒伏抵抗性は「巴まさり」より強い。
6. 収量は「巴まさり」程度である。
7. 「紅光」について品質のいいのが特質である。玄米の形状、大きさは中形中粒であるが、光沢はよく、腹白も少なく、「新榮」「南榮」よりはもちろん「巴まさり」よりも良質である。

奨励範囲

稲晩熟種に属する品種であるから、渡島、檜山の南部で「巴まさり」を栽培している地帯で、漸次「巴まさり」とおきかえて栽培したい。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期 における			ha当り収量		玄 米		収割 歩合	試験 年次
					草丈	穂長	1株 本数	玄米重	稈重	1立 重	千粒 重		
渡島支場	冷床	月日 8.12	月日 9.28	日 158	cm 81.7	cm 16.1	本 17.4	kg 4,209	kg 5,111	g 808	g 21.8	% 80.6	昭和年 26~33 欠29

(7) シンセツ (北海 130号B)

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場上川支場で昭和17年に「亀田早生」を母とし、「石狩白毛」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定をつづけて育成されたもので、昭和21年に「2139」、昭和22年に「2139—A」の仮名称をつけ、昭和24年に「北海 130号」昭和25年には「北海 130号B」の系統名をつけられた。昭和23年から地方適否試験を行なうと同時に岩見沢水稻試験地でも生産力検定試験および特性検定試験を行ない、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期および成熟期は「タイセツ」と同程度で「石狩白毛」よりややおそい中生種に属する。
2. 草型は穂数型で中稈、穂の長さは中位で粒着はやや密、中芒で稈先の色は黄白である。
3. 稲熱病耐病性は「タイセツ」よりも強く「石狩白毛」よりわずかに劣る程度である。
4. 冷水抵抗性は「石狩白毛」よりやや劣り、「タイセツ」と同程度の中に属する。
5. 耐倒伏性は「石狩白毛」、「タイセツ」と同程度のやや強に属する。
6. 収量は標準肥料栽培で稲熱病の被害の少ない場合には「タイセツ」よりやや劣るが、多肥栽培の場合は「石狩白毛」より多収である。
7. 玄米は中形中粒で品質は良好である。

奨 励 範 囲

空知地方の中生種として、泥炭地および稲熱病発生地帯において、「タイセツ」にかわつて栽培するに適し、稲熱病の少ない地帯では「石狩白毛」にかわつて栽培するに適する。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 成 熟 期 に お け る			1m当り収量		玄 米		歩合	試験年次	
				日数	草丈 cm	穂長 cm	1株 茎数	玄米重 kg	稈重 kg	1立			
										kg			g
旧 岩 見 沢 水 稲 試 験 地	冷床	8. 9	9.22	—	89.0	16.1	21	4.226	—	788	21.7	—	昭和 年 26~28
国 立 農 試 作 物 部	冷床	8.10	9.22	147	85.6	15.3	19	4.526	4.815	818	21.3	82.9	24~25, 30 32~33
同 美 唄 研究 室	冷床	8.12	9.27	127	85.7	16.1	21	3.680	5.002	781	21.5	80.8	26~27, 29 32~33

(8) キタミノリ (上育 183号)

米歴ならびに育成経過

この品種は昭和22年に北海道立農業試験場上川支場で、「石狩白毛」を母とし、「北海94号」を父として人工交配を行ない、雑種第3代まで集団選抜

を行ない、それ以後系統選抜をつづけて育成したものである。昭和26年に「261E」の仮名称をつけて生産力検定予備試験に供試するとともに、冷水抵抗性検定試験にも供試し、昭和28年には「上育183号」の系統名で耐病性、耐倒伏性の検定をおこなつた。昭和29年には生産力検定本試験に編入し、同時に原種決定現地試験にも供試し、地方適否をもたしかめ、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「水稻農林20号」、「ワセニシキ」と同程度であるが、成熟期はとくに直播栽培の場合にこれらの品種よりもややおくれ気味である。
2. 草型は中間型で稈長、穂長ともに中位に属し「水稻農林34号」と同程度である。粒着密度は中で、短芒を有し芒色は黄白である。なお稚苗の形態は葉色やや淡く、葉長長く、葉幅やや広く、「水稻農林34号」に似ている。
3. 節稻熱病、頸稻熱病および葉稻熱病に対する抵抗性はいずれも「水稻農林34号」より弱いが、「水稻農林20号」より強く中程度である。
4. 冷水抵抗性は「ワセニシキ」より強く、「水稻農林20号」「水稻農林34号」と同程度で強の部に属する。
5. 耐倒伏性は中程度であるが「水稻農林20号」よりやや強い。
6. 収量は低温年においては上川北部では「ワセニシキ」、「水稻農林20号」および「水稻農林34号」よりまさる。しかし上川中南部では「ワセニシキ」、「水稻農林20号」および「水稻農林34号」よりまさる。平常年では「水稻農林20号」よりややまさり、「ワセニシキ」および「水稻農林34号」とほぼ同程度である。
7. 玄米の形状はやや長く、千粒重量は「水稻農林20号」、「ワセニシキ」より重く、「水稻農林34号」とほぼ同程度である。腹白はやや多く、品質は中位で「水稻農林20号」、「ワセニシキ」より劣る。また食味もこれらの品種に比べるとやや劣るようである。

奨 励 範 囲

上川北部および本道中央部の山間地帯における安全確収品種として奨励す

る。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け			ha当り収量		玄 米		収割 歩合	試験年次
					草丈	穂長	1株 茎数	玄米重	稿俣重	1立 重	千粒 重		
上川支場	直播	8. 3	9.16	—	81.3	14.3	25	4,128	—	817	21.5	—	昭和 年 26~31
	冷床	8. 1	9.19	—	87.6	16.6	16	4,301	—	825	23.0	—	29~31
十勝支場	直播	8.15	9.30	—	85.6	13.9	21	2,544	4,505	779	21.5	78.7	29~33
	冷床	8.13	9.28	—	93.8	16.2	13	2,626	4,158	793	20.2	79.2	29~33
北見支場	冷床	8.14	9.28	143	89.0	16.6	20	3,656	6,819	782	21.2	80.8	28~30
天北支場	冷床	8. 7	9.27	150	65.5	17.3	14	3,003	3,373	801	23.0	78.6	32

(9) ナガミノリ (上育 201号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和22年に北海道立農業試験場上川支場で、「水稻農林17号」と「水稻農林34号」の雑種第1代を母とし、「大国早生」と「栄光」の雑種第1代を父として人工交配を行なった。いわゆる4系交配のもので、雑種第4代目まで集団選抜を行ない、それ以後系統選抜をつづけて育成したものである。昭和29年以降「上育 201号」の名称で生産力検定試験に供試するとともに、耐冷性、耐病性、耐倒伏性の検定を行ない、昭和31年から原種決定現地試験に供試し、地方適否をもたしかめ、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「水稻農林34号」よりややおそいが「栄光」よりやや早い。成熟期は「栄光」と大差がない。
2. 草型は穂数型で稈長、穂長ともに「栄光」なみ、粒着はやや密で中位の長さの芒が少しある。稈先には特別の色はない。
3. 稻熱病に対する抵抗性は全般的には「水稻農林34号」にはやや劣るが、「栄光」より強い。穂首稻熱病だけみると「水稻農林34号」にひつてきする強さを持っている。
4. 耐冷性のうち遅延型については「トヨヒカリ」程度であるが、障害型は「トヨヒカリ」よりも強い。しかし全般的にみればやや弱い。

5. 耐倒伏性は「栄光」よりやや弱く中程度である。
6. 収量は移植、直播ともに「栄光」にまさり、冷害年あるいは少肥の場合にとくにその差が大きい傾向がある。
7. 玄米の形状はやや長く、粒形はやや大で千粒重量は「水稻農林34号」程度である。品質は腹白が多く「栄光」より劣る。

奨励範囲

上川中南部を中心とする中生種地帯において「栄光」「トヨヒカリ」と配合して栽培するに適する。

試験場名	苗代 模式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		籾摺 歩合	試験年次
					草丈 cm	穂長 cm	1株 実数	玄米重 kg	籾重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
上川支場	直播	8. 4	9. 25	131	80.5	14.5	35	4,402	—	825	22.7	—	昭和 年 30~32
	冷床	8. 5	9. 26	150	84.5	16.5	20	4,609	—	829	23.1	—	29~32
十勝支場	直播	8.22	10. 3	—	76.6	13.1	23	1,494	5,012	806	21.1	80.9	31~32
	冷床	8.14	9. 28	—	85.7	14.9	18	2,670	4,387	784	22.3	82.4	30~32
国立農試 作物部 同 美 研究室	冷床	8.12	9.30	157	87.6	16.6	22	4,321	5,545	812	23.5	83.9	29~33
	冷床	8. 7	9.26	124	81.5	16.4	22	3,863	4,537	785	22.5	82.5	29~33

(10) フクニキ (上育 202号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に北海道立農業試験場上川支場で、「北海 112号」を母とし「水稻農林34号」を父として人工交配を行ない、以来選抜固定をはかつてきたものである。昭和29年以降「上育 202号」の系統名で生産力検定試験と特性検定試験を行なった。昭和31年からは原種決定現地試験に供試して地方適否をもたしかめ、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「水稻農林34号」と大差ないが、成熟期はややおそい。
2. 草型は穂数型で稈長、穂長共に「栄光」程度、粒着はやや密で無芒である。稈先に特別のちがいはない。

3. 稻熱病に対する抵抗性はあまり強くなく、「シラユキ」程度である。
4. 耐冷性は遅延型、障害型共に「水稻農林34号」よりまさり強の部になる。
5. 耐倒伏性は「榮光」「水稻農林34号」より弱く中程度である。
6. 収量は直播栽培では「水稻農林34号」に比べて昭和30年には大差なかったが、昭和31年、昭和32年ともに約10%余多い。移植栽培では「水稻農林34号」に比べてややまさる程度であるが、昭和31年の冷害年を除いても「榮光」、「トヨヒカリ」にひつてきする収量を示している。
7. 玄米の大きさは中程度、品質は腹白やや多く「水稻農林34号」より劣る。

奨励範囲

熟期および耐冷性の点から、早中生種地帯に適するが、耐病性の点からみて稻熱病の発生しやすいところでは栽培をさけるべきである。

試験場名	苗代 模式	出穂期	成熟期	生育 における			ha当り収量		玄米		刈摺 歩合	試験年次
				日数	草丈 cm	穂長 cm	1株 本数	玄米重 kg	籾重 kg	1立 kg	千粒 g	
上川支場	直播	8. 3	9.19	—	83.1	14.1	36	4,781	—	825	21.1	昭和30~32
	冷床	8. 2	9.19	—	87.1	16.1	20	4,627	—	825	20.6	29~33
十勝支場	直播	8.13	9.28	—	79.0	13.1	25	2,958	4,486	795	19.9	31~33
	冷床	8.12	9.30	—	88.7	15.5	17	3,141	4,393	805	20.3	31~33
北見支場	電熱 温床	8.19	9.25	145	85.0	16.6	19	3,195	7,570	796	19.3	31~33
	冷床	8.11	10. 1	157	92.1	15.1	25	4,801	5,523	808	21.9	29~33
国立農試 作物部 同美研研究室	冷床	8. 6	9.26	124	85.0	16.1	21	4,006	3,875	801	21.2	29~33

(11) ヤチミノリ (水稻農林 105号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に北海道立農業試験場上川支場において「1718 (農林1号×農林15号)」を母とし、「水稻農林34号」を父として人工交配を行ない育成したものである。昭和24年にさらに北海道農業試験場作物部において

「1718」を戻交配、同25年以降は稲熱病耐病性を重点とし、泥炭地適応性および冷害抵抗性等についても考慮し集団および系統選抜をつづけた後、昭和30年に「岩系11号」の系統名を附して生産力検定予備試験を実施、同31年よりは本試験を行ない、同32年には「北海 166号」の系統名をつけて原種決定現地試験にも供試して地方適否をたしかめ、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「水稻農林34号」よりややおそく、「石狩白毛」とほぼ同程度で「栄光」よりやや早い。成熟期は「水稻農林34号」よりややおそく、「石狩白毛」と同程度である。ただし熟期が揃わない傾向にあり、倒伏した場合は登熟日数が長くなる。
2. 草型は偏穂数型、穂長は「水稻農林34号」よりやや短かく、やや短穂に属する。穂長は「水稻農林34号」および「トヨヒカリ」と同程度で中位に属する。粒着密度は中程度であるが、枝梗の基部にやや密の部分がみられる。無芒で稈先には着色しない。
3. 稲熱病に対する抵抗性は「水稻農林34号」と「石狩白毛」の中間または「石狩白毛」程度の強さを示し、強の部に属する。
4. 耐冷性は中程度で「水稻農林34号」と同程度である。
5. 耐倒伏性は「栄光」よりも弱く、弱の部に属する。
6. 収量は「水稻農林34号」および「石狩白毛」よりも多収であり、「栄光」と同程度である。
7. 玄米の形状は中形でやや大きく、千粒重量は「栄光」「トヨヒカリ」より重く、「水稻農林34号」とほぼ同程度である。品質は「水稻農林34号」より劣る。

奨 励 範 囲

熟期、収量および稲熱病耐病性の点からみて「水稻農林34号」「シンセツ」ならびに「石狩白毛」の一部に代わつて中生種地帯の中生の早品種として、とくに稲熱病の頻発する地帯に適する。稲熱病耐病性は「石狩白毛」程度に強いが、倒伏しやすく、登熟が不揃の傾向を示すので、泥炭地の新田にはさ

けるべきである。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 成 熟 期 に お け る				ha当り収量		玄 米		歩合	試験年次
				日数	草丈 cm	穂長 cm	1株 本数	玄米重 kg	稈重 kg	1立 重 g	1粒 重 g		
天北支場	冷床	8. 6	9.25	148	76.1	16.5	17	3,321	5,163	815	21.0	80.8	昭和 33
空知支場	冷床	8.10	9.27	151	83.2	17.0	22	4,368	3,323	810	23.2	83.3	30~33
国立農試 作物部	冷床	8.12	10. 1	157	78.2	14.7	26	4,327	5,785	814	22.7	84.6	31~33
同英明研究室	冷床	8. 7	9.25	125	81.7	16.2	24	4,333	4,937	801	23.2	84.5	31~33

(12) ミマサリ (上育 214号)

来歴ならびに育成経過

北海道立農業試験場上川支場で、昭和22年(「巴錦」×「上育 142号」)を母とし、(「大野中稻」×「水稻農林34号」)を父として人工交配を行ない、雑種第3代までは集団選抜、それ以降は系統選抜を行ない、昭和28年に「2836」の仮名称をもつて生産力選抜試験に供試し、昭和30年に「上育 214号」の系統名を附して生産力検定予備試験に、昭和32年原種決定本試験に供試して、地方適否をたしかめ、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期、成熟期とも「栄光」よりやや早く中生種に属する。
2. 草型は穂数型に属しやや短穂、穂長は「栄光」程度で比較的強稈で粒着はやや密、無芒である。
3. 稻熱病抵抗性は「水稻農林34号」程度でやや強の部に属する。
4. 冷水抵抗性は遅延型でやや弱く、「栄光」程度であるが障害型は「シラユキ」と同程度で強の部に属する。
5. 耐倒伏性は「水稻農林34号」よりやや劣り「栄光」程度の部に属する。
6. 収量は直播、移植ともに「栄光」、「トヨヒカリ」よりまさり、施肥量の多少にかかわらず多収である。
7. 玄米の形状はやや円形で中程度である。品質は腹白多く光沢中程度で外観は「フクユキ」「ナガミノリ」よりやや劣るが、食味は「フクユキ」程

度である。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		籾摺 歩合	試験年次
					草丈 cm	穂長 cm	株 数	玄米重 kg	籾重 kg	1立 g	千粒 重 g		
上川支場	直播	8. 6	9.22	—	74.1	13.1	35	4,814	—	822	23.3	—	昭和 年 32~33
	冷床	8. 5	9.22	—	82.5	15.5	22	5,291	—	824	23.9	—	32~33
天北支場	冷床	8. 8	9.24	147	75.5	16.3	18	4,188	4,121	805	23.2	90.4	33
国立農試 美唄研究室	冷床	8. 7	9.25	125	81.7	16.2	24	4,333	4,937	801	23.2	84.5	30~32

(13) イワコガネ (水稻農林 119 号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に旧農林省札幌農事改良実験所永山試験地において「1718」を母とし、「水稻農林34号」を父として人工交配を行ない、さらに昭和24年農林省北海道農業試験場作物部において、「1718」を戻交配、昭和25年稲熱病耐病性の個体検定、昭和26、27年には集団選抜を、北海道立農業試験場空知支場においては耐病性検定を行ない、昭和29年以降は主として空知支場において泥炭地適応性ならびに稲熱病耐病性を重点にして系統選抜をつづけた後、昭和30年に「岩系8号」の系統名をつけ、生産力検定予備試験を行ない、昭和31年以降各地で地方適否を検定した結果優良と認めたので、昭和35年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「榮光」、「ミマサリ」と同程度で、「トヨヒカリ」よりやや早い。
2. 成熟期は「榮光」よりおそく、「トヨヒカリ」と同程度である。
3. 草型は穂数型、稈長は「榮光」よりやや長く、やや長稈種に属する。
4. 穂はやや長く、粒着はやや密で無芒、稈先に着色はない。
5. 耐冷性は「榮光」、「ヤチミノリ」よりややまさり、やや強の部に属する。
6. 稲熱病耐病性は「榮光」より強く、「ヤチミノリ」と同程度である。

7. 耐倒伏性は弱の部に属するが、「ヤチミノリ」よりわずかにまさる。
8. 収量は「栄光」、「トヨヒカリ」より多収であるが、多肥条件では各種の障害をおこし「ミマサリ」程度の増収性を示さない。
9. 品質は「ヤチミノリ」、「ミマサリ」よりややまさるが、「栄光」より劣る。

奨 励 範 囲

以上の特性からみて、「栄光」、「トヨヒカリ」、「ミマサリ」等の中生種地帯における配合品種として適し、また耐冷性、耐病性の点からみて「シンセツ」の一部にもかわりうる。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 成 熟 期 に お け る				ha当り収量		子 実		収割 歩合	試験年次
				日数	草丈 cm	穂長 cm	穂数 本	玄米重 kg	稿稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
上川支場	冷床	8. 5	9.22	153	83.1	14.9	26.5	5,116	5,015	831	21.6	82.7	33~34
空知支場	冷床	8.12	9.30	155	88.1	16.8	23.0	4,486	—	801	23.3	82.3	30~34
岩手県 宇都宮 試験地	冷床	8. 8	9.21	—	81.2	15.3	18.3	5,060	—	—	—	—	33~34
国 立 農 試 作 物 試 部	冷床	8. 9	9.23	152	85.6	12.2	27.2	5,636	—	804	20.8	83.3	33~34
国 立 農 試 美 研 究 室	冷床	8. 8	9.23	152	101 .7	16.5	23.0	5,391	4,653	791	21.5	84.6	31~34

標 種

(14) オフクモチ (渡育 139号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和18年に北海道立農業試験場上川支場で「青森糯14号」を母とし、「福糯」を父として人工交配を行ない、昭和21年雑種第3代より渡島支場で選抜育成がつづけられた。昭和26年以降「渡育 139号」の育成番号により兄弟系統との比較試験が行なわれ、昭和31年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期および成熟期は「南糯」に比べて普通の年にはおそいが、冷害年にはむしろ早くなるので、冷害年の生育遅延による心配は少ない。

2. 分けつや穂長は「南糯」に比べてほとんどかわらないが、粒溜は密で、短芒を有するものが多く、同じ穂の中に短芒と無芒のみられるのが特徴である。草丈はやや高いが倒伏は少ない。出穂当時稈先が紅色をていするが成熟すると褐色になる。
3. 稻熱病に対する抵抗性はおおむね強に属する。
4. 耐倒伏性は強い。
5. 収量は特に多収というほどではない。これはこの品種の特徴が耐病性、耐倒伏性にあるので被害の少ない場合の「南糯」に比べてあまり差がないためである。
6. 玄米の色沢や、餅とした場合の粘力、食味等については「南糯」とかわりがない。

奨 励 範 囲

この品種は本道糯品種中の最晩熟のものであるから、従来「南糯」の栽培されていた地帯で作るべきで、秋季早冷の地方で作ることは適当でない。「南糯」に代えて作る場合でも冷床苗により生育を促進させて栽培することが肝要である。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米			試験年次
					草丈	穂長	1株 米数	玄米重	稈重	1立 重	千粒 重	歩合	
渡島支場	冷床	月日 8. 9	月日 9.25	日 154	cm 91.1	cm 17.6	本 16	kg 3,901	kg 4,940	g 801	g 17.3	% 79.8	昭和 年 26~33 欠29

(15) 双 豊 糯

来歴ならびに育成経過

この品種は夕張郡長沼町、篠島清作氏の育成によるもので、昭和19年に「双葉1号」を母とし、「豊光山崎糯」を父として人工交配を行い、以降系統育種法により選抜育成を行ない、昭和24年に「神系75号」の系統名で生産力検定を行ない、昭和30年以降系統維持栽培を行なうとともに「双豊糯」と命名して地方試作を行なってきた。

北海道立農業試験場空知支場においては、昭和32年に種子の分譲をうけ生

産力検定試験を行ない、昭和33年以降地方適否を検定した結果優良と認めたので、昭和35年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は石狩、空知の中南部、日高、胆振地方では「ユキモチ」と同程度かやや早く、空知北部、上川、留萌、天塩地方では3、4日早い。
2. 成熟期は各地とも登熟日数を多く要し、特に石狩、空知地方の泥炭地で後でできる土地では「ユキモチ」に比べてややおくれる。
3. 草型は扁穂数型で、稈長は「ユキモチ」より長く中稈に属する。穂長は「ユキモチ」よりやや長く、粒着密度は中で穂短芒を有し、稈先色は黄白である。
4. 耐冷性はやや強の部に属し、「ユキモチ」に比べ冷水による出穂遅延は少ない。
5. 稲熱病に対する耐病性は「ユキモチ」より強い。
6. 耐倒伏性は「ユキモチ」と同程度である。
7. 収量は「ユキモチ」と同程度であるが、不良年の場合または不良環境地帯ではやや多収である。
8. 玄米の品質は「ユキモチ」と同程度かやや劣り、特に青米が多い。餅質は「ユキモチ」よりややまざる。

奨 励 範 囲

以上の特性からみて、一部「ユキモチ」にかえることが望ましく、道北地方では「キタモチ」「ハシリモチ」と配合または、これにおきかえることが望ましい。

試験場名	苗代 様式	出穂期		生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		子 実		歩合	試験年次
		月日	月日		草丈 cm	穂長 cm	穂数 本	玄米重 kg	精米重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
上川支場	冷床	7.29	—	—	—	—	—	4.999	—	—	—	—	昭和33~34
	直播	8. 5	—	—	—	—	—	4.970	—	—	—	—	34
十勝支場	冷床	8.12	9.30	146	80.7	16.7	17.2	3,446	3,311	764	19.2	78.4	34

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		子 実		初摺 歩合	試験年次
					草丈	穂長	穂数	玄米重	稈稈重	1立 重	千粒 重		
		月日	月日	日	cm	cm	本	kg	kg	g	g	%	昭和 年
北見支場	冷床	8. 7	10. 1	152	100.5	18.5	18.0	3,954	5,480	758	18.6	82.0	34
	直播	8.17	—	—	—	—	—	3,126	—	—	—	—	34
天北支場	冷床	8. 7	9.23	149	78.0	18.0	—	4,002	3,778	806	18.7	79.7	34
空知支場	冷床	8.11	9.28	154	85.1	18.3	23.0	4,450	—	803	20.6	82.4	32~34
国立農試 作物部	冷床	8. 6	9.20	151	81.6	13.4	25.2	4,990	5,724	795	18.7	81.8	33~34
国立農試 美唄研究室	冷床	8. 6	9.22	153	—	—	19.9	4,488	3,823	782	19.9	84.9	33~34

II 大麥および裸麥

春 播 大 麥

(1) 六角大関 (札育1号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和18年に北海道農業試験場において「町村大麥」を母とし、「早生六角」を父として人工交配を行ない、以後選抜固定を図り、昭和25年より生産力検定試験を行なうと同時に地方適否試験を行ない優良と認めたもので昭和28年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 密6条種に属し、穂は短かく太く、長芒を有し穂数はやや少ないが、草丈は短かく稈は太く耐倒伏性である。
2. 出穂期は「札幌六角」、「大樹大麥」よりやや早い、成熟期はそれらと同じ程度である。
3. 子実は大粒豊満で色はやや灰色を帯びる。稈率はやや高い。
4. 斑葉病にはやや強いが、小銹病抵抗性は「札幌六角」程度である。
5. 子実収量は多収である。

奨 励 範 囲

北海道中央部ならびに網走支庁管内に奨励普及する。